

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 福島 秀治
 (コード番号: 8732 東証プライム市場)
 問合せ先 経営管理部長 宇留野 真澄
 (TEL. 03-4540-3804)

2022年4月次 月次概況 (速報) のお知らせ

2022年4月次の当社グループの月次概況 (連結ベース) を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	2022年3月期											
	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位: 百万円)	445	403	430	395	387	470	430	429	589	394	396	550
外国為替取引高 (単位: 百万通貨単位)	72,253	82,478	73,411	92,739	76,532	78,411	90,593	95,217	66,099	73,976	82,802	134,241
外国為替取引口座数 (単位: 口座)	342,801	343,397	343,817	344,134	344,314	344,522	344,755	345,482	346,625	347,287	347,437	347,991
外国為替取引預り証拠金 (単位: 百万円)	58,635	56,276	56,581	56,671	56,468	56,284	55,503	54,426	53,911	54,402	53,808	55,068
一般顧客	57,068	54,786	54,965	55,027	55,065	54,825	54,090	52,988	52,409	52,848	52,151	53,306
金融法人 (BtoB)	1,567	1,489	1,616	1,644	1,403	1,459	1,412	1,438	1,501	1,554	1,657	1,761
マネパカード口座数 (単位: 口座)	161,712	161,526	161,301	161,091	160,964	160,800	160,701	160,574	160,390	159,994	159,566	159,097

年 月	2023年3月期											
	2022年									2023年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位: 百万円)	457											
外国為替取引高 (単位: 百万通貨単位)	130,806											
外国為替取引口座数 (単位: 口座)	348,893											
外国為替取引預り証拠金 (単位: 百万円)	56,841											
一般顧客	55,261											
金融法人 (BtoB)	1,579											
マネパカード口座数 (単位: 口座)	158,807											

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
 2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
 3. 2011年8月よりCFD-Metals取引 (差金決済取引) の取扱いを開始しており、CFD-Metals取引における預り証拠金、取引高 (原取引単位を米ドルに換算) 及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
 4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとBtoB取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。
 5. 2020年7月から2021年3月までの「営業収益」には連結子会社のコインエージ株式会社の数値が含まれております。なお、同社は2021年3月31日をもって暗号資産交換業を廃業し解散しております。
 6. 2022年3月より、暗号資産CFD取引 (差金決済取引) における預り証拠金及び取引高 (売買代金を米ドルに換算) はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」に含めて表示しております。

< 4月次の概況 >

4月の外国為替相場は、米ドル/円については、1ドル＝月中安値の121円台後半で取引が始まり、1日に発表された米3月雇用統計が全体的には堅調な結果となったことから123円台前半を付けました。5日に黒田日銀総裁による円安牽制発言により一時122円台前半まで下げるも、米金利の上昇や再度日銀の金融緩和方針の継続と円安容認姿勢が意識され11日には125円台後半まで上昇しました。12日に発表された米3月CPIが前年同月比8.5%上昇、1981年12月以来の高水準となったものの、コア指数が予想を下回り発表直後に124円台後半まで下落しました。13日に黒田日銀総裁による金融緩和政策の継続姿勢を改めて強調した発言を背景に急伸し、2002年5月以来となる126円台前半を付け、15日には米長期金利の高止まりを支えに126円台後半まで上昇しました。その後も上昇基調が続き、20日には日米金融政策格差を意識したドル買いにより129円台半ばを付け、21日はポジション調整の動きから一時128円を割り込むも、その後は米長期金利が上昇し128円台前半まで持ち直しました。25日に中国のコロナウイルス感染拡大による景気減速懸念の高まりからリスク回避の動きが見られ、加えて米金利低下も相俟って27日には一時127円を割り込みました。しかし、28日に開催された日銀金融決定会合において、連続指値オペの運用を明確化したことを受けて急上昇し月中高値の131円台前半をつけ、129円台後半で月末を迎えました。

米ドル/円以外の主要な取扱通貨である欧州・オセアニア通貨については、米ドル/円と同様、円に対して上昇傾向で推移しましたが、下旬にかけては下落傾向で推移しました。

外国為替相場の変動率は、米ドル/円の1日の平均値幅が1.256円（前月は1.049円、2020年3月の2.072円以来の高い水準）と前月より拡大した一方で欧州通貨の1日の平均値幅が縮小したことから、若干低下したものの前月同様に非常に高い水準となりました。

このような状況の中、パートナーズFXnanoにおいては、先月から引き続きゴールデンマネパタイム（17時00分～26時00分、以下同じ。）においてスプレッドを縮小するキャンペーンを続行しております。3月21日からの「米ドル/円」、「ポンド/円」、「豪ドル/円」の3通貨ペアだけでなく、4月11日に「ユーロ/円」、「ユーロ/米ドル」、25日には「トルコリラ/円」をラインナップに加え、スプレッドの縮小を段階的に実施しております。さらに、当社の人気4通貨ペアである「米ドル/円」、「ユーロ/円」、「豪ドル/円」、「ポンド/円」で当社所定の注文数量まで原則24時間業界最狭水準スプレッド0.0銭（売買同値）を提示するキャンペーンを実施しております。他にも、「ユーロ/米ドル」では当社所定の注文数量まで0.1pips、「トルコリラ/円」では当社所定の注文数量まで0.9銭の原則24時間業界最狭水準スプレッドを提示するキャンペーンを実施しております。

「約定力100%」のパートナーズFXでも、先月から引き続きゴールデンマネパタイムを続行しており、「ユーロ/円」、「ポンド/円」、「豪ドル/円」、「ユーロ/米ドル」、「ポンド/米ドル」、「NZドル/円」、「南アランド/円」、「メキシコペソ/円」、「カナダドル/円」、「ポンド/豪ドル」、「ユーロ/豪ドル」、「豪ドル/米ドル」、「トルコリラ/円」の計13通貨ペアで業界最狭水準スプレッドを提示するキャンペーンを実施しております。

また、4月19日からはCFD-Metalsにてゴールデンマネパタイム中の業界最狭水準スプレッド提示キャンペーンを開始しました。ゴールデンマネパタイム中は「金/米ドル」スプレッド0.2pips、「銀/米ドル」スプレッド0.2pipsの業界最狭水準スプレッドを提示しております。

これに加えて、5月2日からキャッシュバックキャンペーンを4月より更に強化しており「米ドル/円」、「トルコリラ/円」に「メキシコペソ/円」を加え、期間中（2022年5月2日7:00から6月1日5:55）の取引日数に応じて最大25%キャッシュバックを増額しております。さらに当社所定の期間（4月1日6:10～4月30日5:50）に通貨ペアを問わず1度でも当社でFX取引をされたお客様は、キャンペーン期間中に1日でもお取引いただくと3%のキャッシュバック増額からスタートしていただける内容としております。

外国為替取引高は、米ドル/円が増加したものの、欧州・オセアニア通貨を中心に減少し、前月比3%減少の1,308億通貨単位となりました。営業収益は、取引高の減少等によりトレーディング損益が減少したことや、前月に大きく増加したシステム関連売上高の反動減から前月比17%減少の457百万円となりました。また、外国為替取引預り証拠金は一般顧客分が増加、金融法人分が減少となり、全体では前月比1,772百万円増加の56,841百万円となりました。

以上